

福祉に関するアンケート調査結果概要

調査種別	福祉に関するアンケート調査 (18歳以上の方対象)	福祉に関するアンケート調査 (18歳未満の方対象)
発送数	2,450名	506名
回収数	1,660s	319s
回収率	67.8%	63.0%

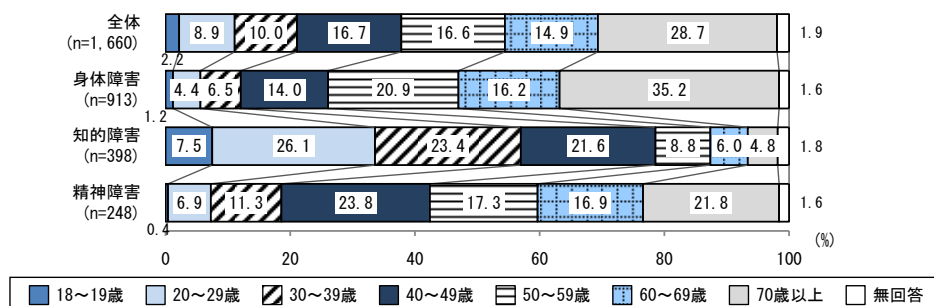
アンケートの集計結果から、1～10の項目（分野）に関して、特徴的な結果を抜粋しています。

1. 回答者の属性

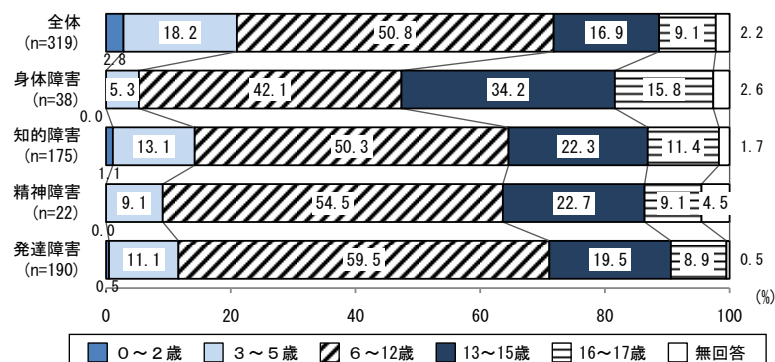
(1) 年齢

- 18歳以上は、全体の28.7%が「70歳以上」となっています。障害種別で見ると『身体障害』では「70歳以上」が35.2%、『知的障害』は「20～29歳」が26.1%、『精神障害』では「40～49歳」が23.8%と最も高くなっています。
- 18歳未満は、「6～12歳」が50.8%と最も高くなっています。

18歳以上

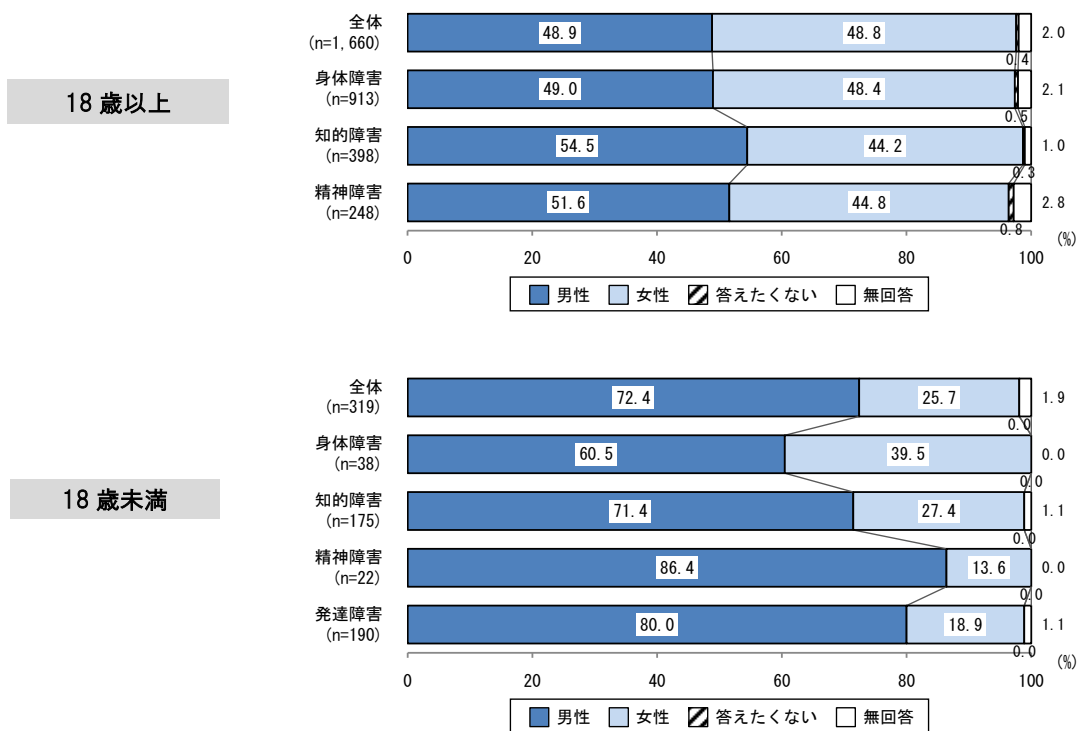


18歳未満



(2) 性別

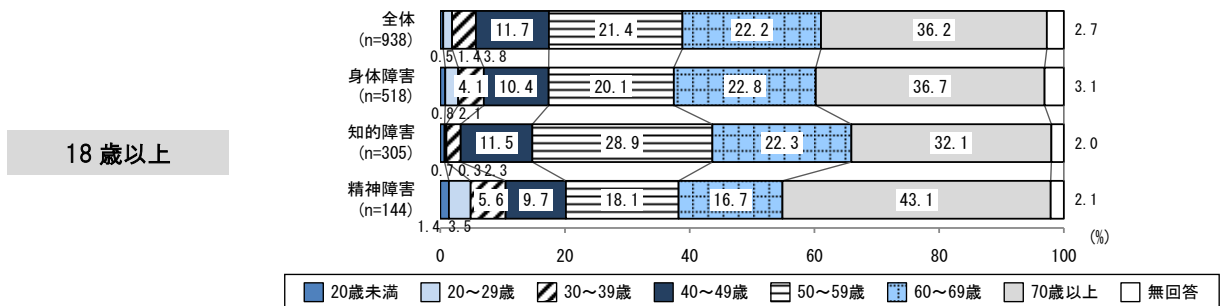
- 18歳以上では、全体で「男性」が48.9%、「女性」が48.8%となっています。
- 18歳未満では、全体で「男性」が72.4%、「女性」が25.7%と、男性の割合が高くなっています。



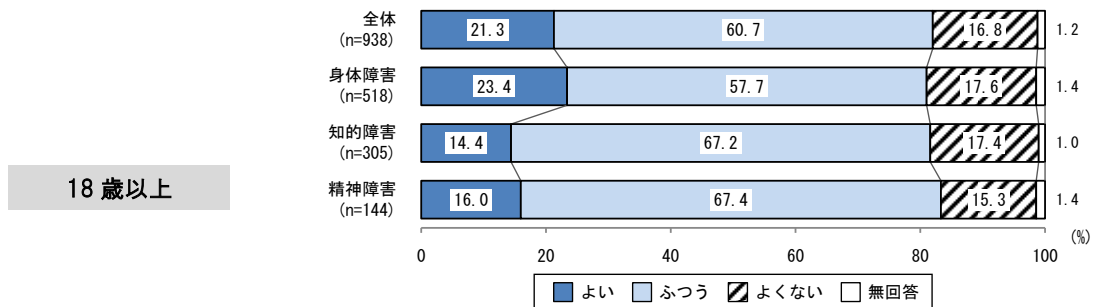
2. 介助者について

- ・介助者の年齢は「70歳以上」、介助者の健康状態は「ふつう」が高くなっています。
- ・今後の生活においての不安は「自分の身体機能等の低下により、本人を介助・支援できなくなるのが不安」が高くなっています。
- ・同居家族の中で、本人以外に介助が必要な人が「いる」割合が、18歳以上では15.3%、18歳未満では25.1%となっています。

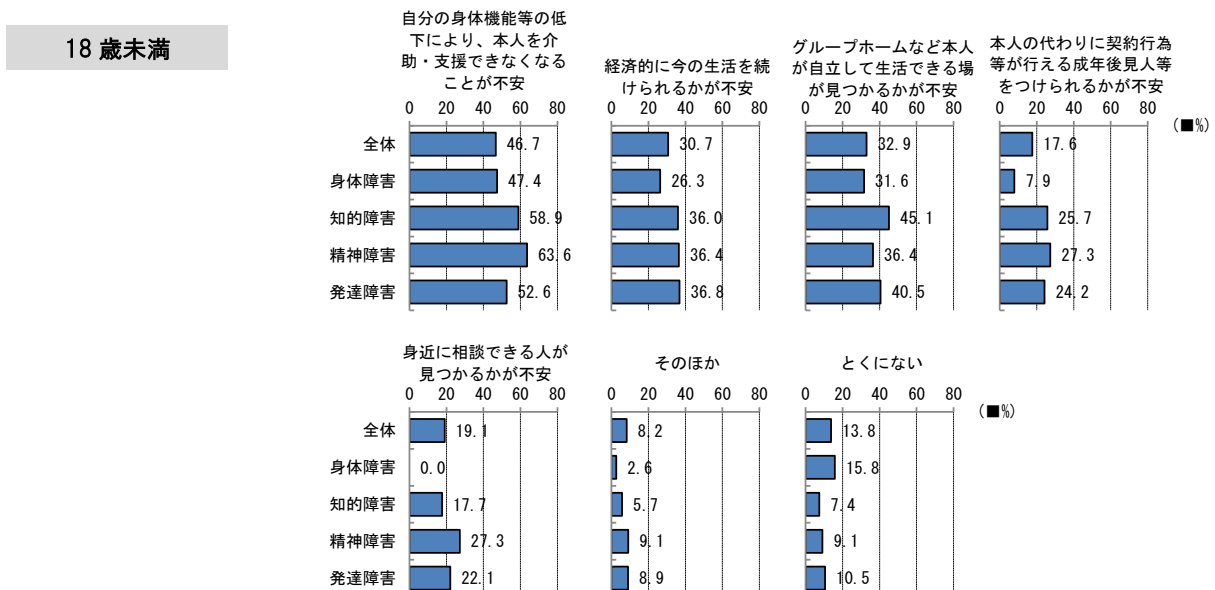
■介助者の年齢



■介助者の健康状態

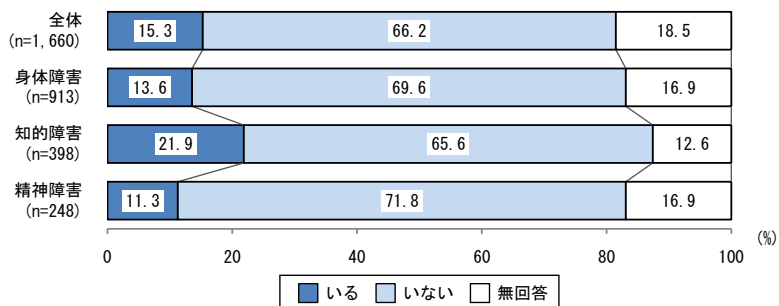


■主な介助者の、今後の生活においての不安

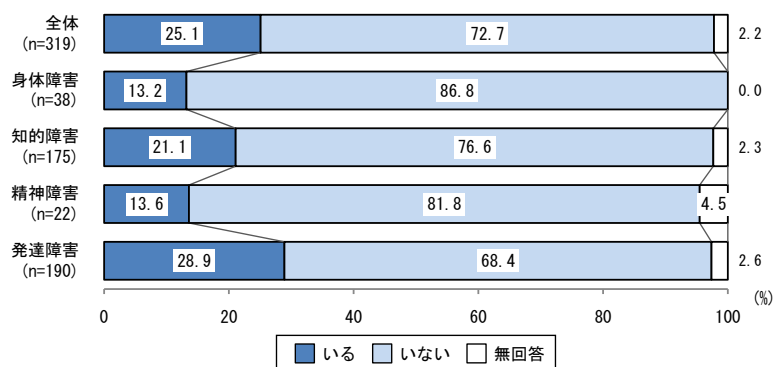


■同居家族の中で、本人以外に介助が必要な人の有無

18 歳以上



18 歳未満

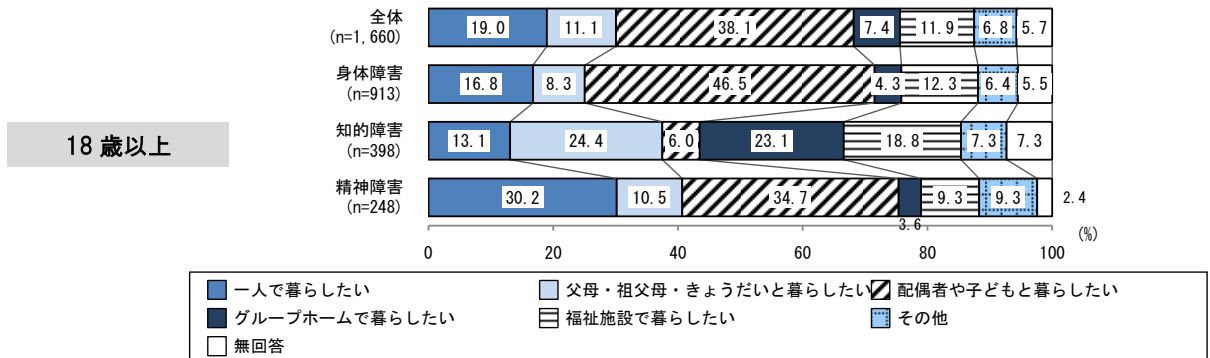


3. 地域生活

(1) 暮らし

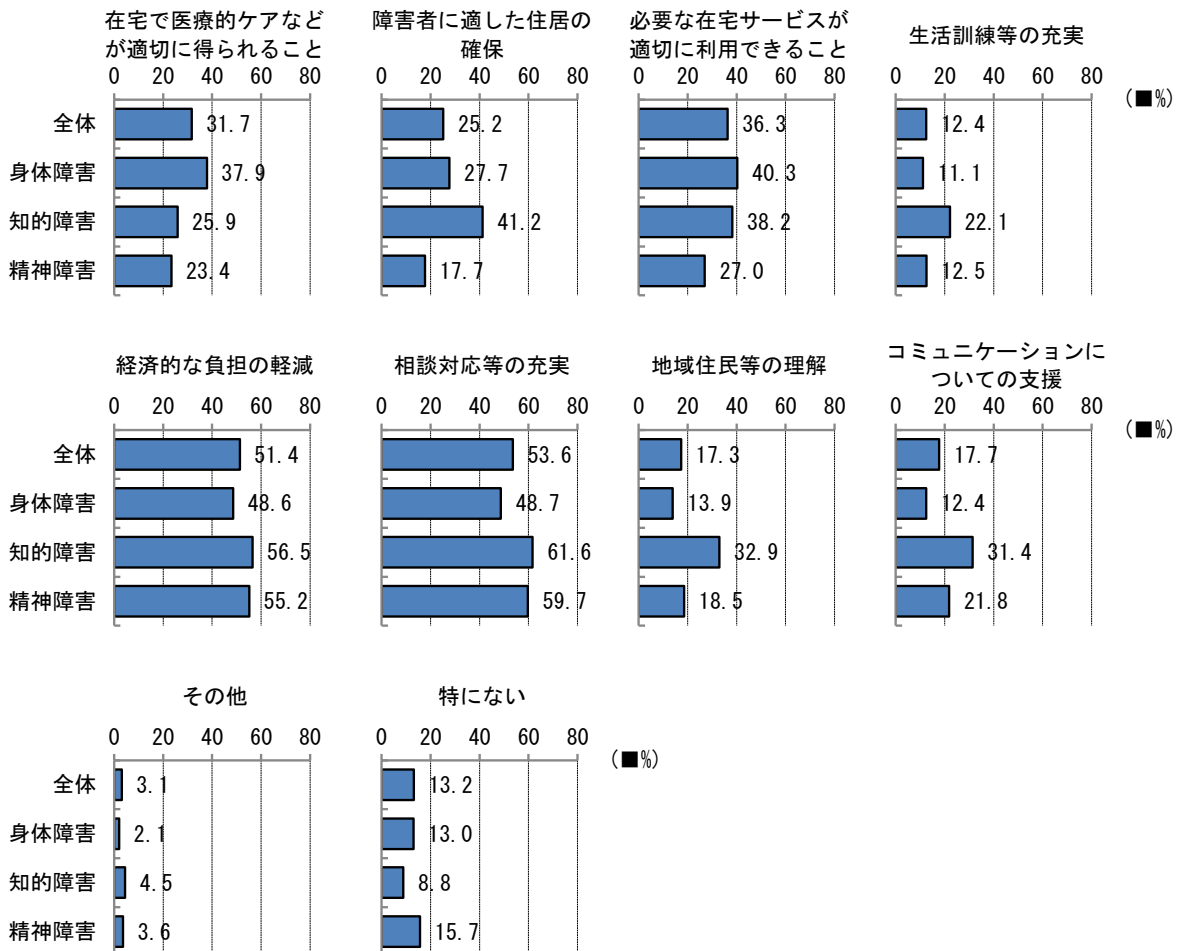
- 将来の暮らしの希望は、「配偶者や子どもと暮らしたい」が38.1%と最も高くなっています。
- 地域での生活するためにあればよい支援として、障害種別に関わらず「相談対応等の充実」と「経済的な負担の軽減」が高くなっています。

■ 将来の暮らしの希望



■ 地域で生活するためにあればよい支援

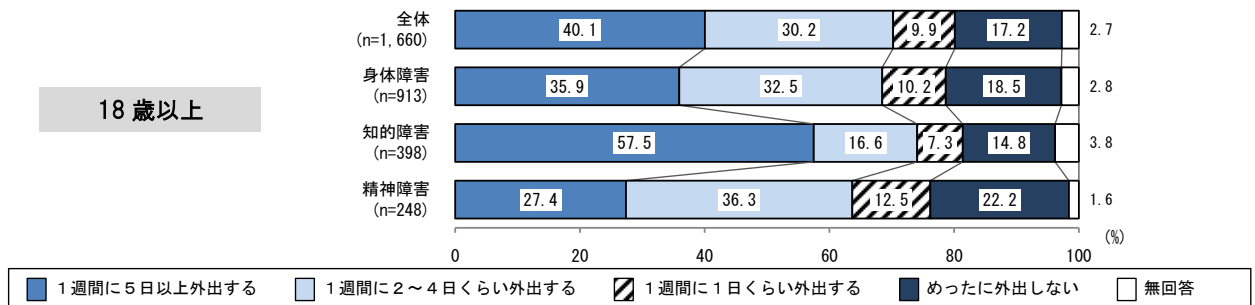
18歳以上



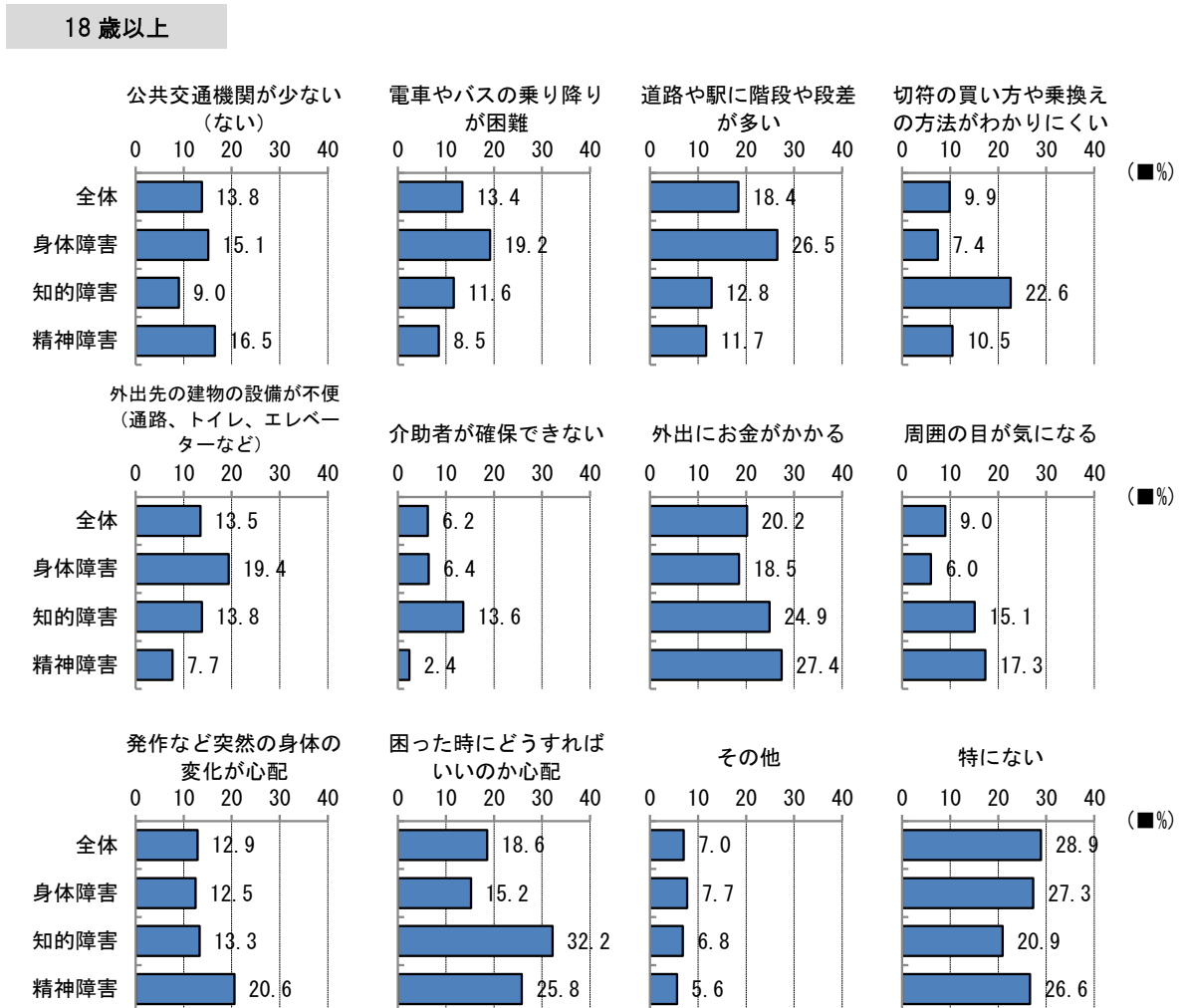
(2) 外出

- ・外出頻度は、「1週間に5日以上外出する」が全体で40.1%です。『精神障害』は同項目が27.4%と低くなっています。
- ・外出先で困ることは、「特にない」が2割以上である一方で、『身体障害』は「道路や駅に階段や段差が多い」、『知的障害』は「困った時にどうすればいいのか心配」、『精神障害』は「外出にお金がかかる」が高くなっています。

■外出頻度



■外出で困ること

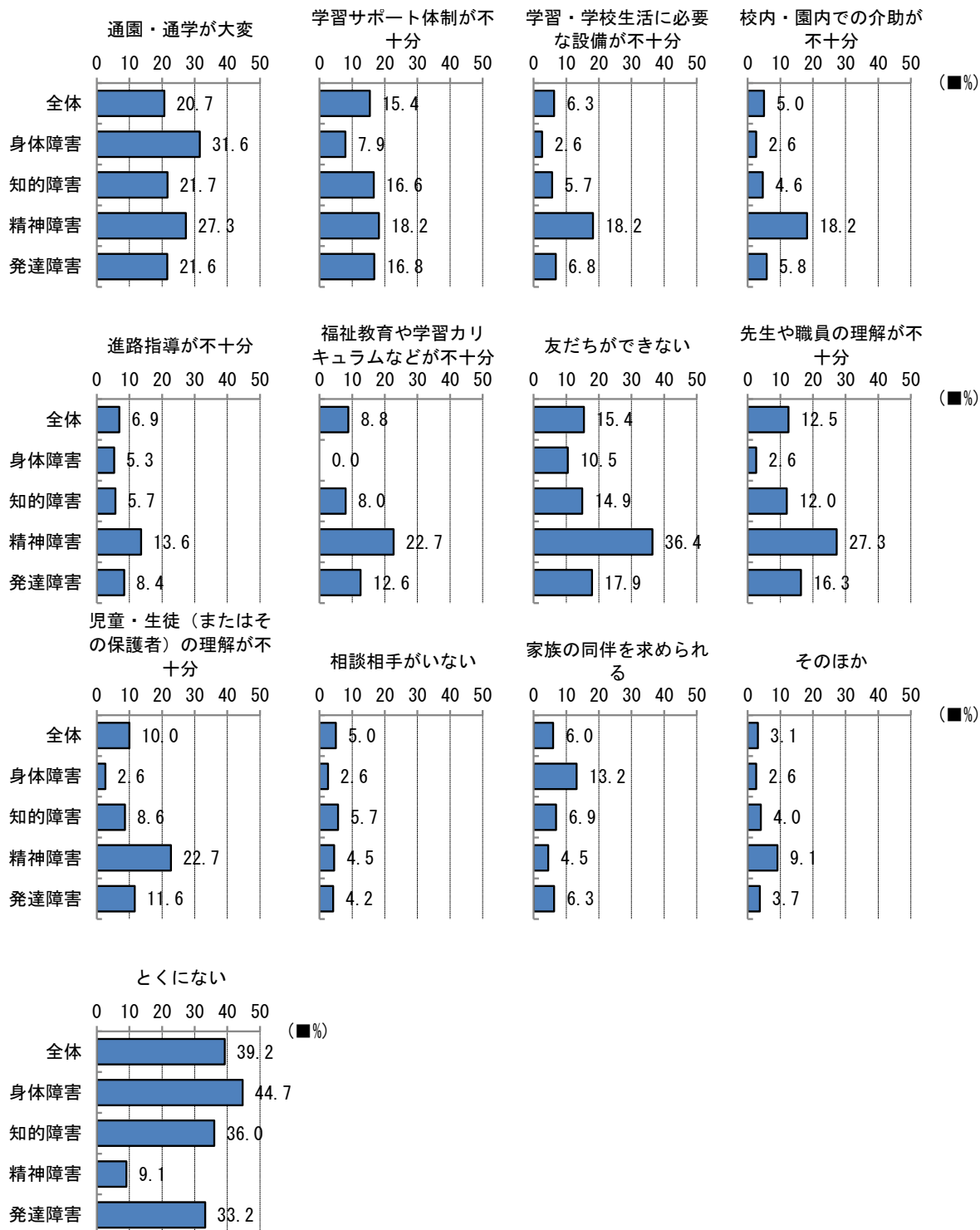


4. 通園・通学

- ・園・学校生活を送る上での問題点は、「通園・通学が大変」が高くなっています。
- ・障害等があるかないかに関わらず、できるだけ同じ学校で教育を受ける方がよいという意見については、肯定的な意見（そう思う＋どちらかといえばそう思う）が半数以上となっています。

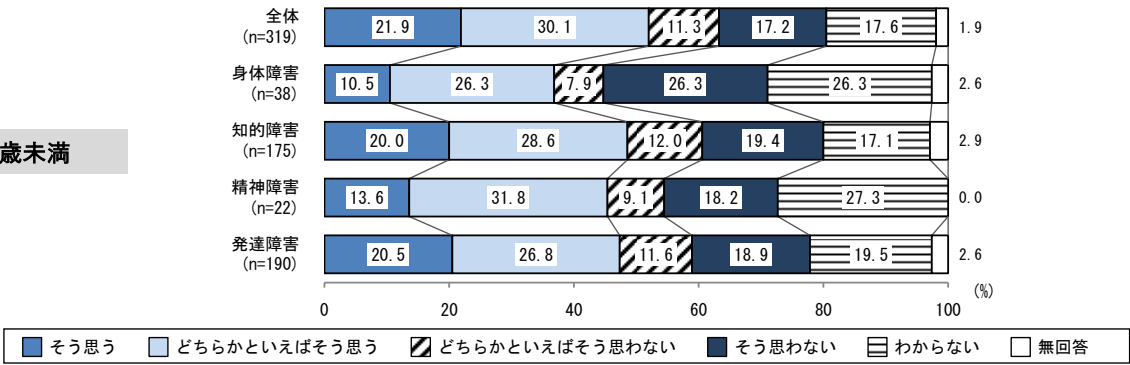
■園・学校生活を送る上での問題点

18歳未満



■障害等があるかないかに関わらず、できるだけ同じ学校で教育を受ける方がよいという意見について

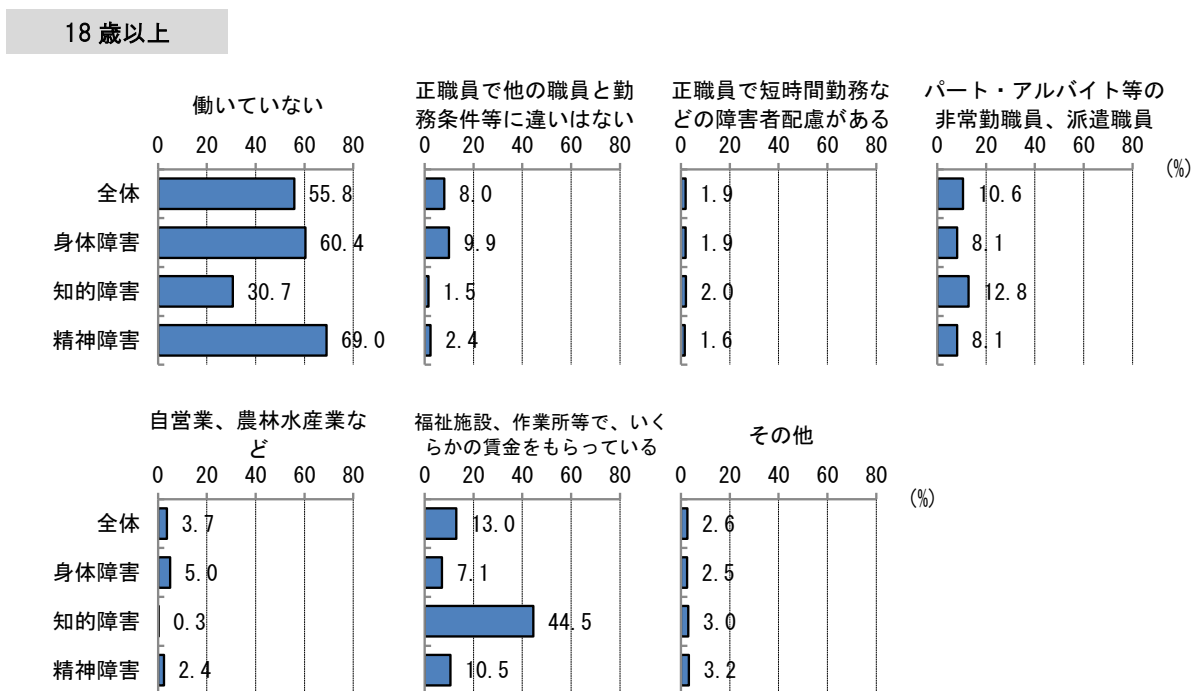
18歳未満



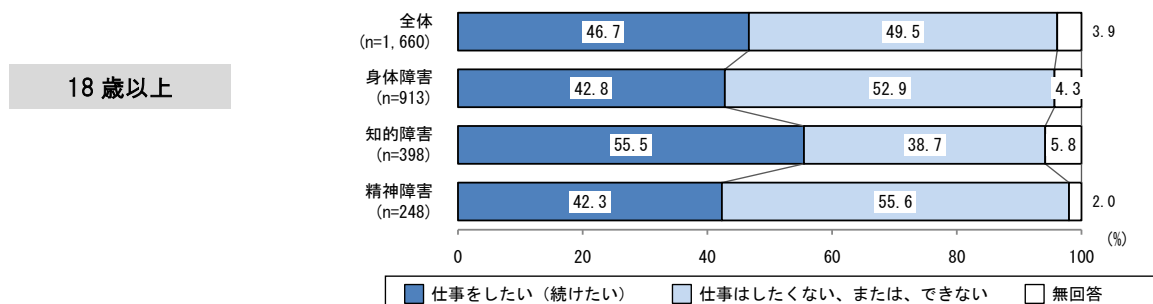
5. 就労

- 就労状況は「働いていない」が全体で 55.8%となっています。『知的障害』は「福祉施設、作業所等でいくらかの賃金をもらっている」が 44.5%と高くなっています。
- 就労意向は、「仕事をしたい」が全体で 46.7%となっています。
- 障害者の就労支援として必要なこと（18 歳以上）は、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が障害種別に関わらず最も高くなっています。
- 将来就労にあたって望むこと（18 歳未満）は、「一般企業の障害者雇用の拡大」が障害種別に関わらず最も高くなっています。

■ 就労状況

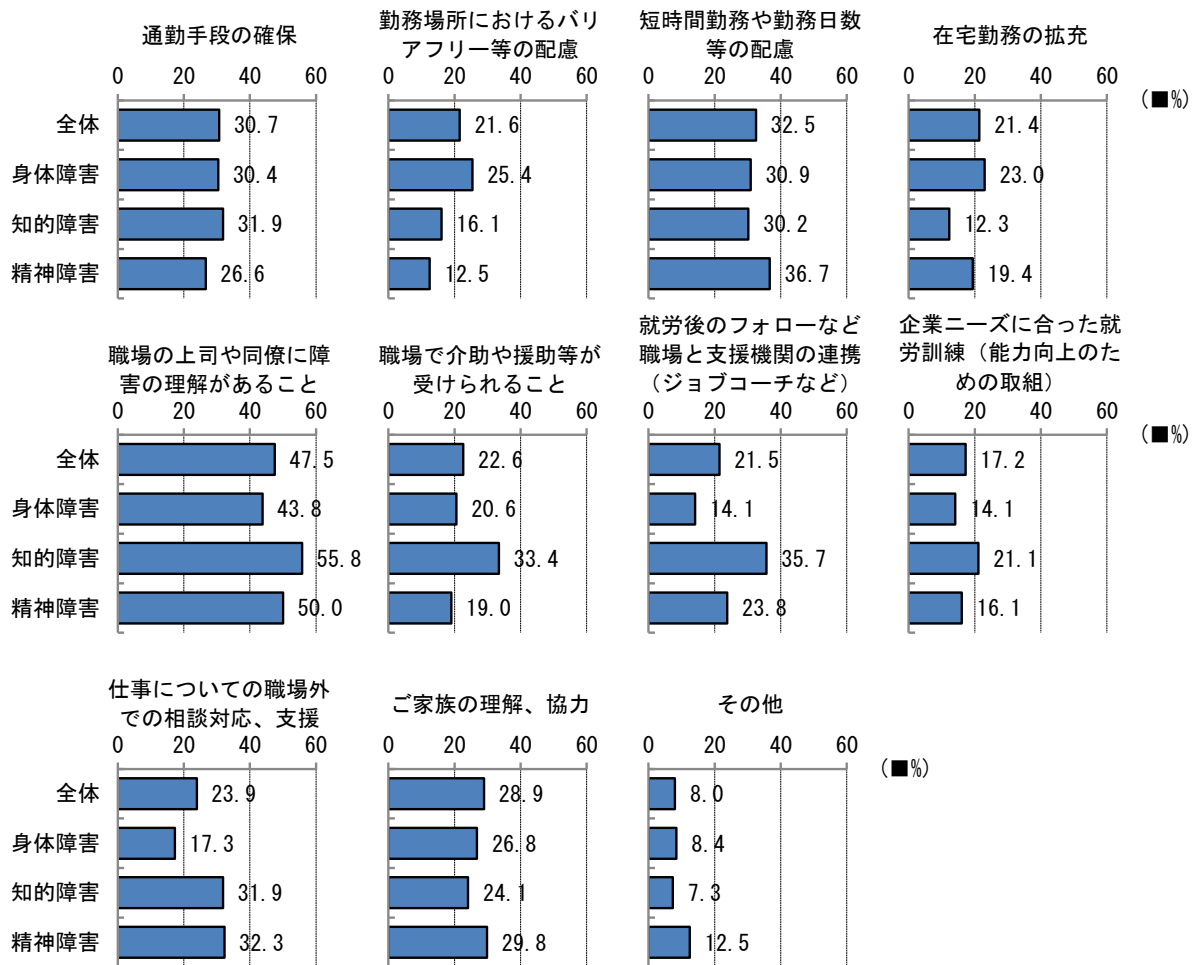


■ 就労意向



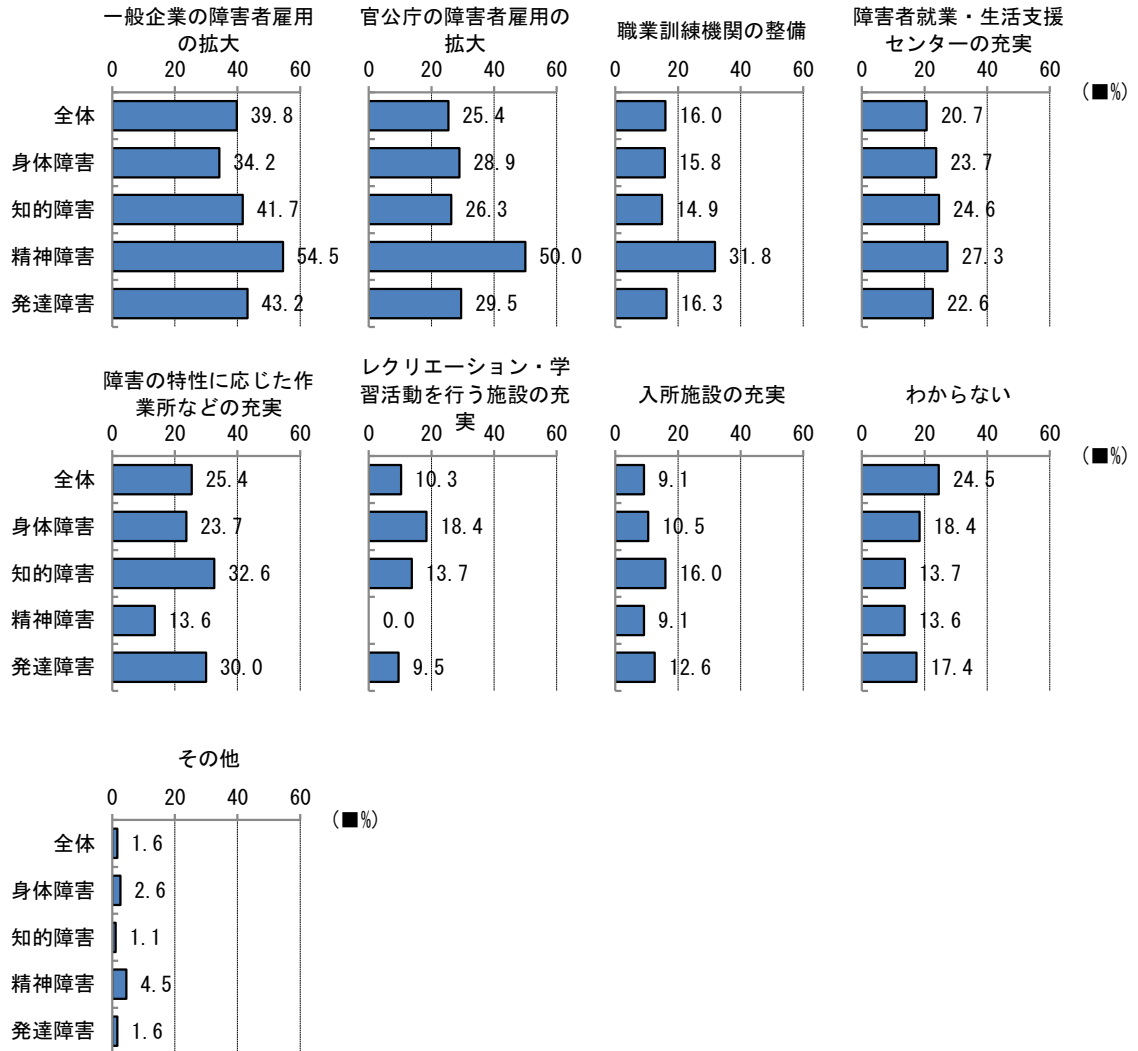
■障害者の就労支援として必要なこと

18歳以上



■ 将来就労にあたって望むこと

18歳未満

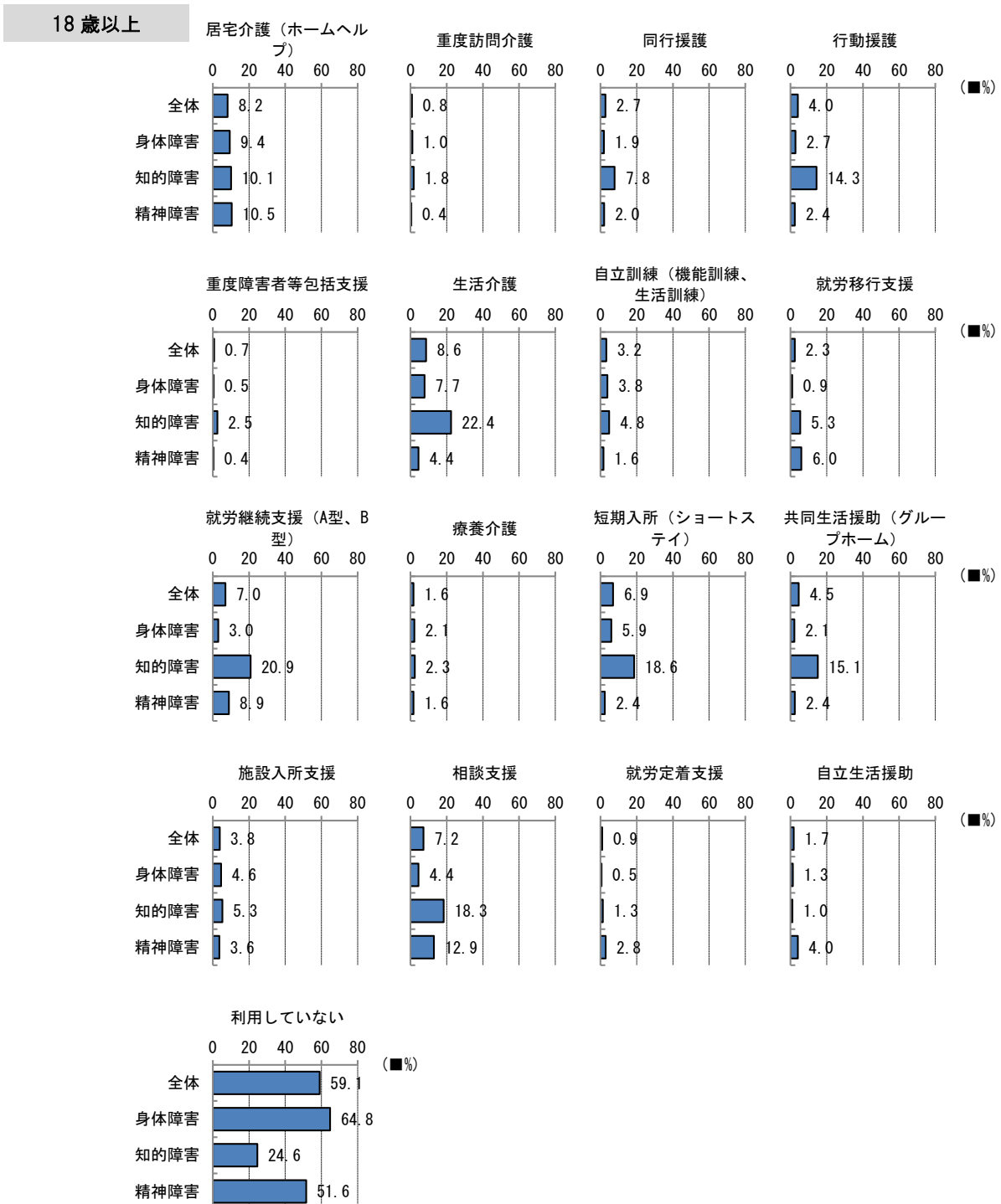


6. 福祉サービス

(1) 現在の利用

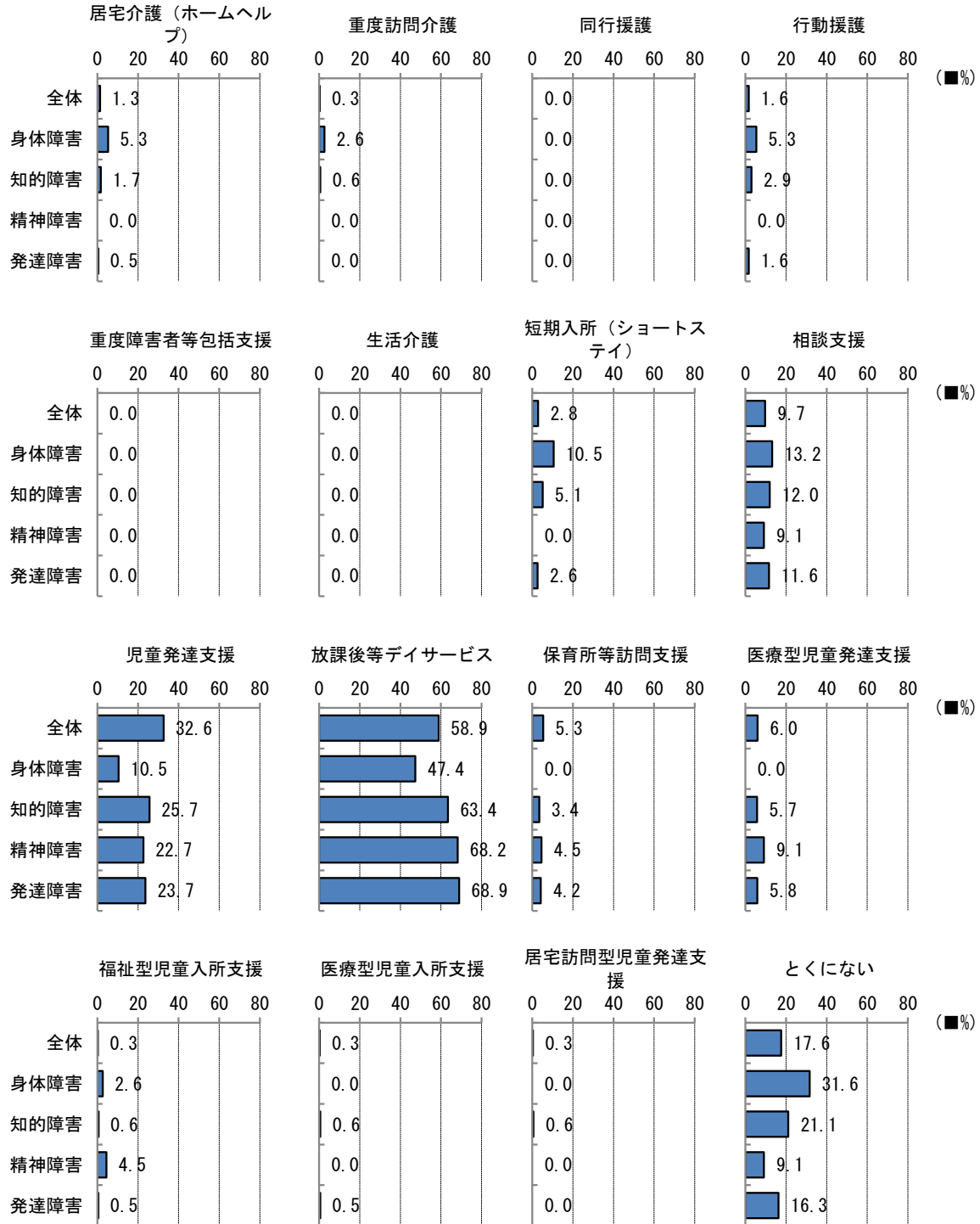
- 現在利用しているサービス（18歳以上）は、「利用していない」を除くと『身体障害』では「居宅介護（ホームヘルプ）」（9.4%）、『知的障害』では「生活介護」（22.4%）、『精神障害』では「相談支援」（12.9%）が高くなっています。
- 1年以内に利用したサービス（18歳未満）は、障害種別に関わらず「放課後等デイサービス」が高くなっています。

■現在利用しているサービス



■ 1年以内に利用したサービス

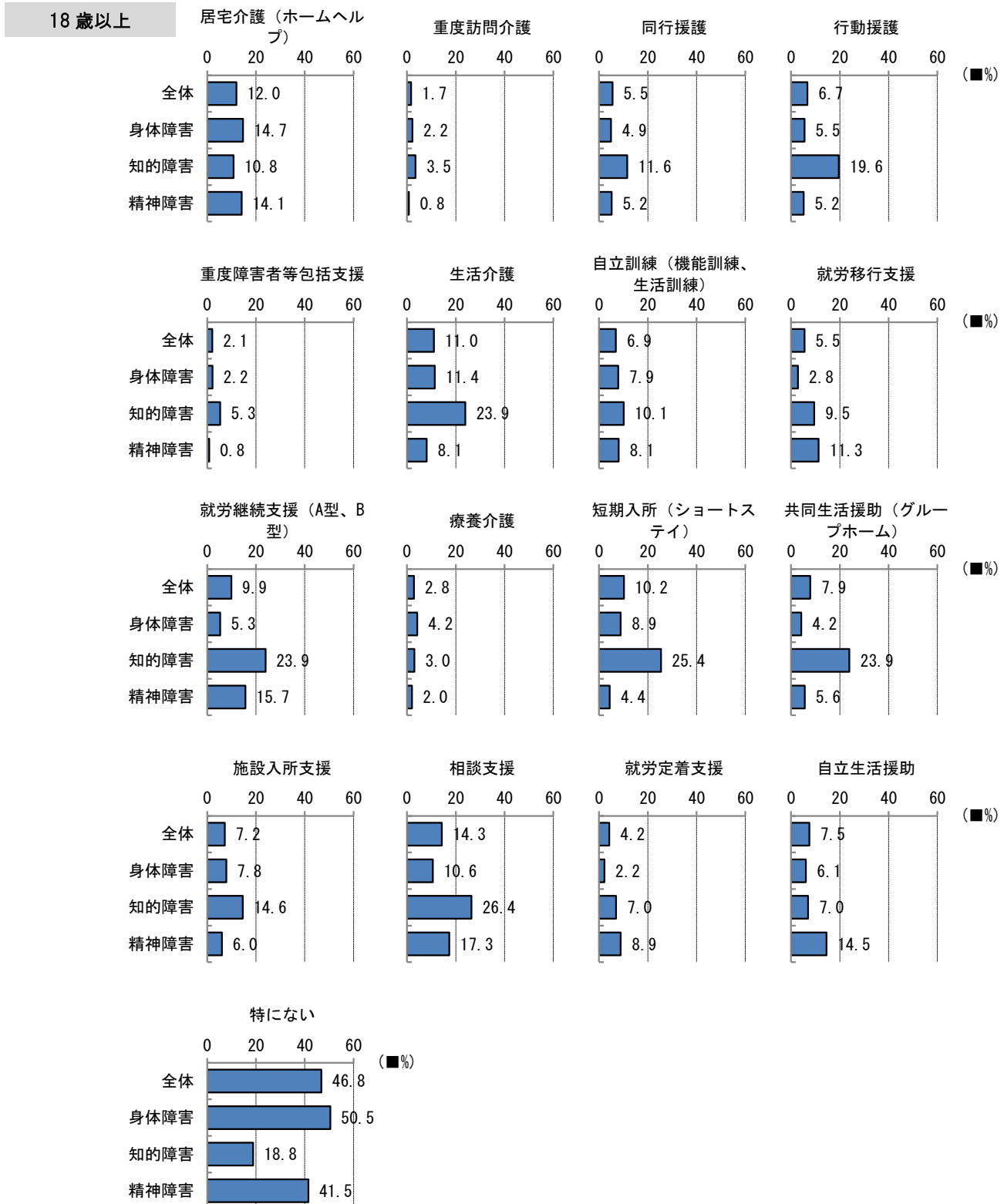
18歳未満



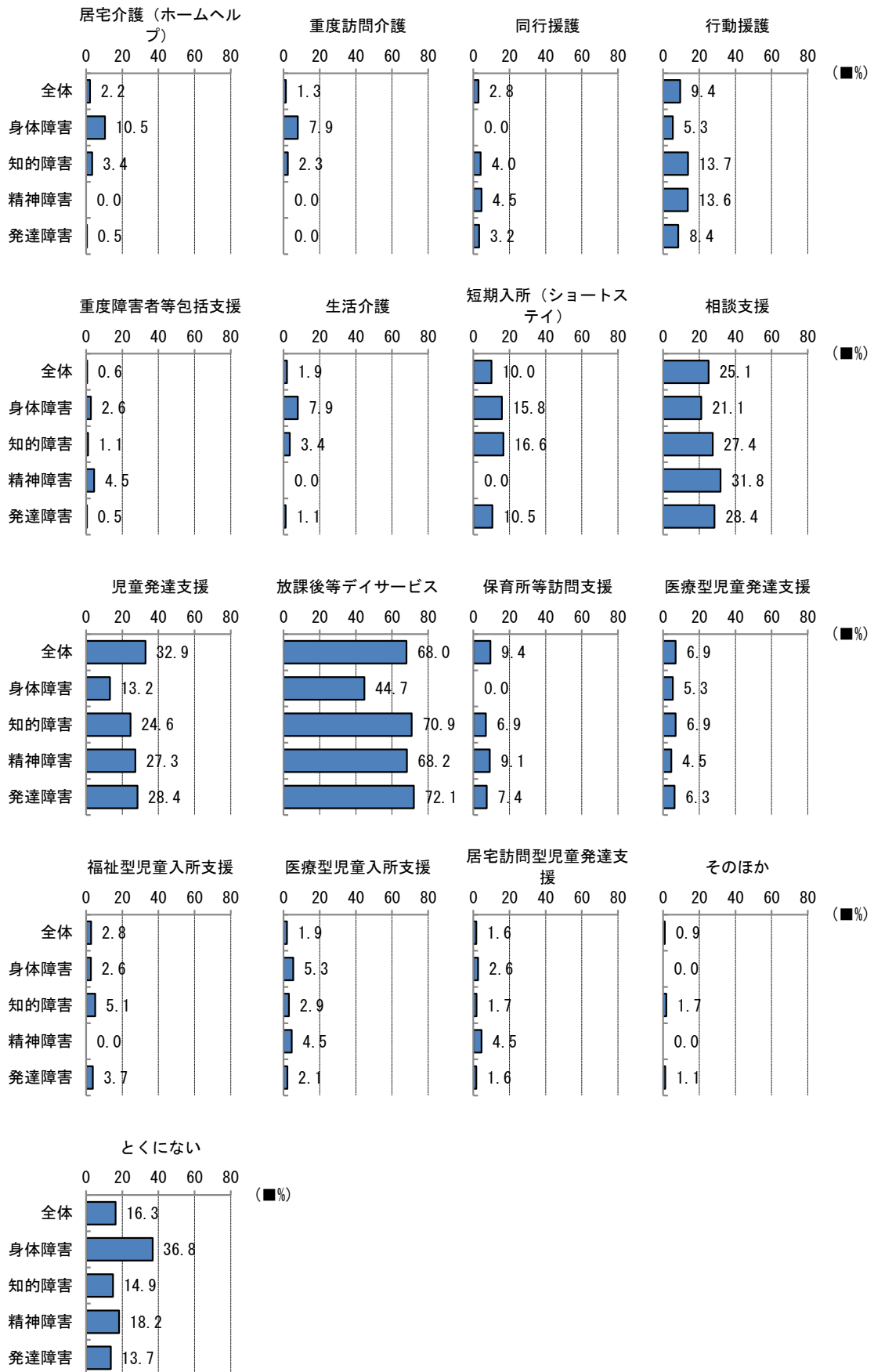
(2) 今後の利用

- これから利用したいサービス（18歳以上）は、「特にない」を除くと『身体障害』が「居宅介護（ホームヘルプ）」、『知的障害』、『精神障害』が「相談支援」が高くなっています。
- これから利用したいサービス（18歳未満）は、障害種別に関わらず「放課後等デイサービス」が高くなっています。

■これから利用したいサービス



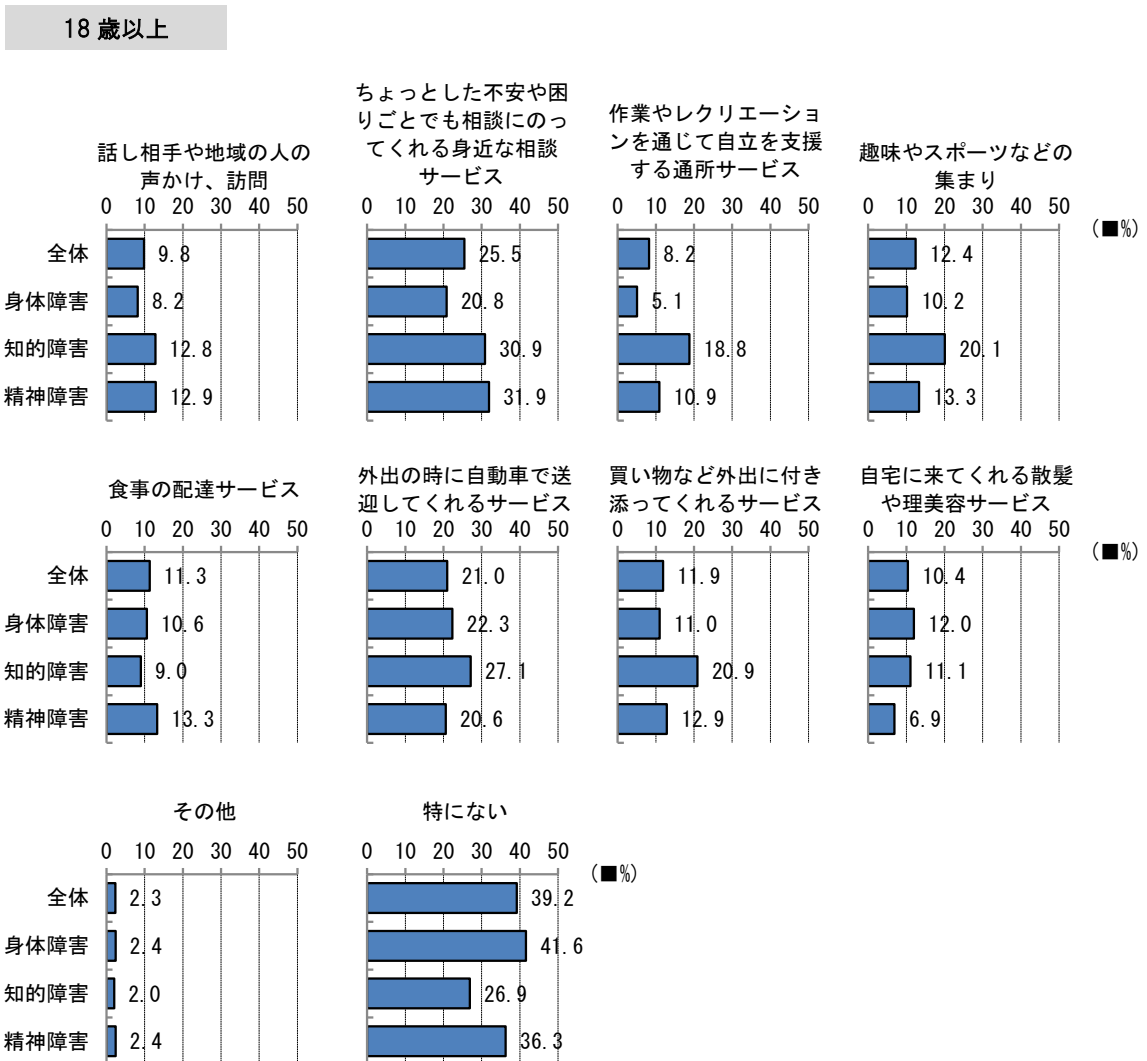
18歳未満



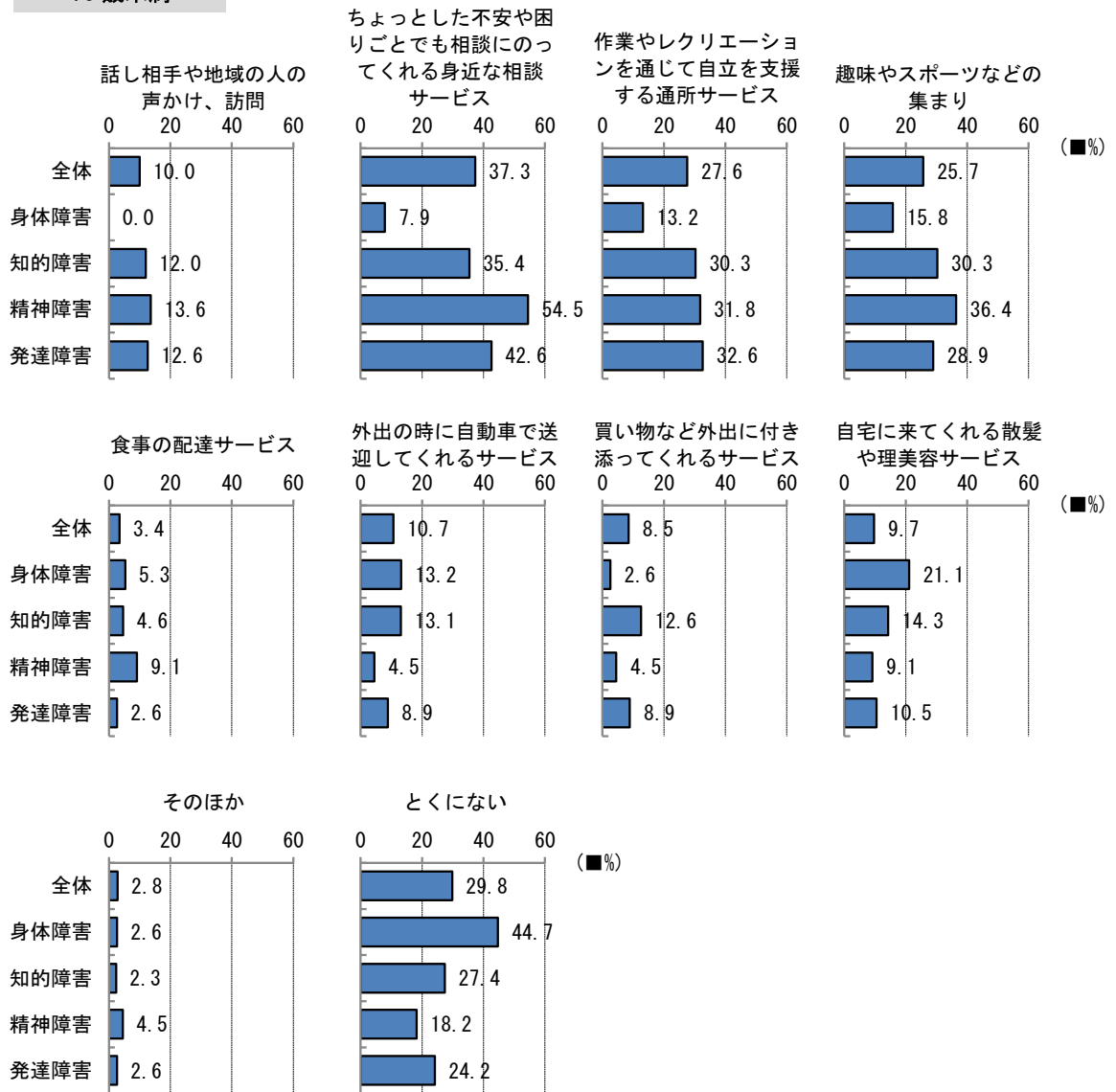
(3) その他必要なサービス

- それ以外に必要なサービス（18歳以上）は、「特にない」を除くと『身体障害』は「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」、『知的障害』と『精神障害』は「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が高くなっています。
- これから利用したいサービス（18歳未満）は、「とくにない」を除くと『身体障害』は「自宅に来てくれる散髪や理美容サービス」、『知的障害』と『精神障害』、『発達障害』は「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が高くなっています。

■ それ以外に必要なサービス



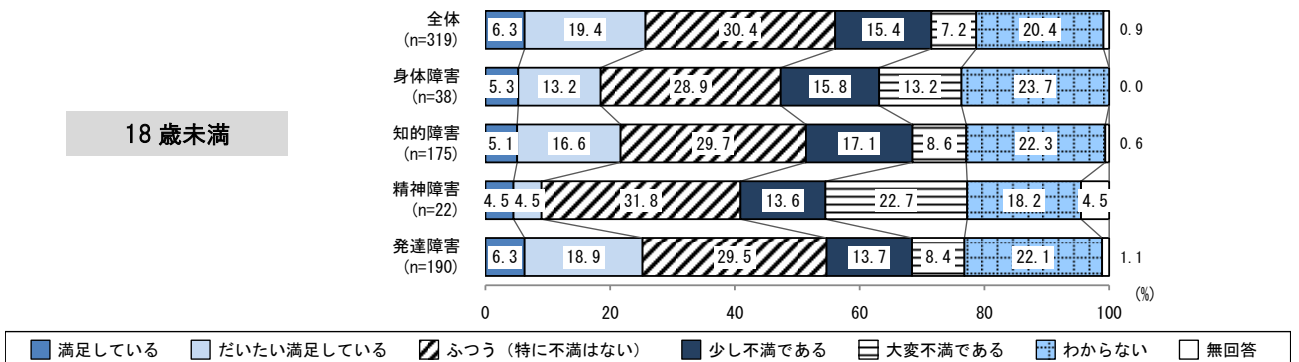
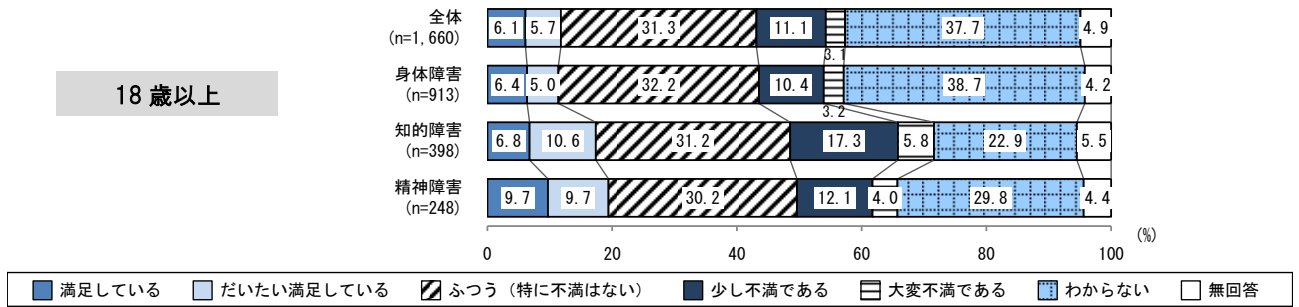
18歳未満



(4) 福祉サービスの満足度

- 福祉サービスの満足度に対して、「満足（満足している+だいたい満足している）」は、18歳以上で11.8%、18歳未満で25.7%となっています。

■福祉サービスの満足度

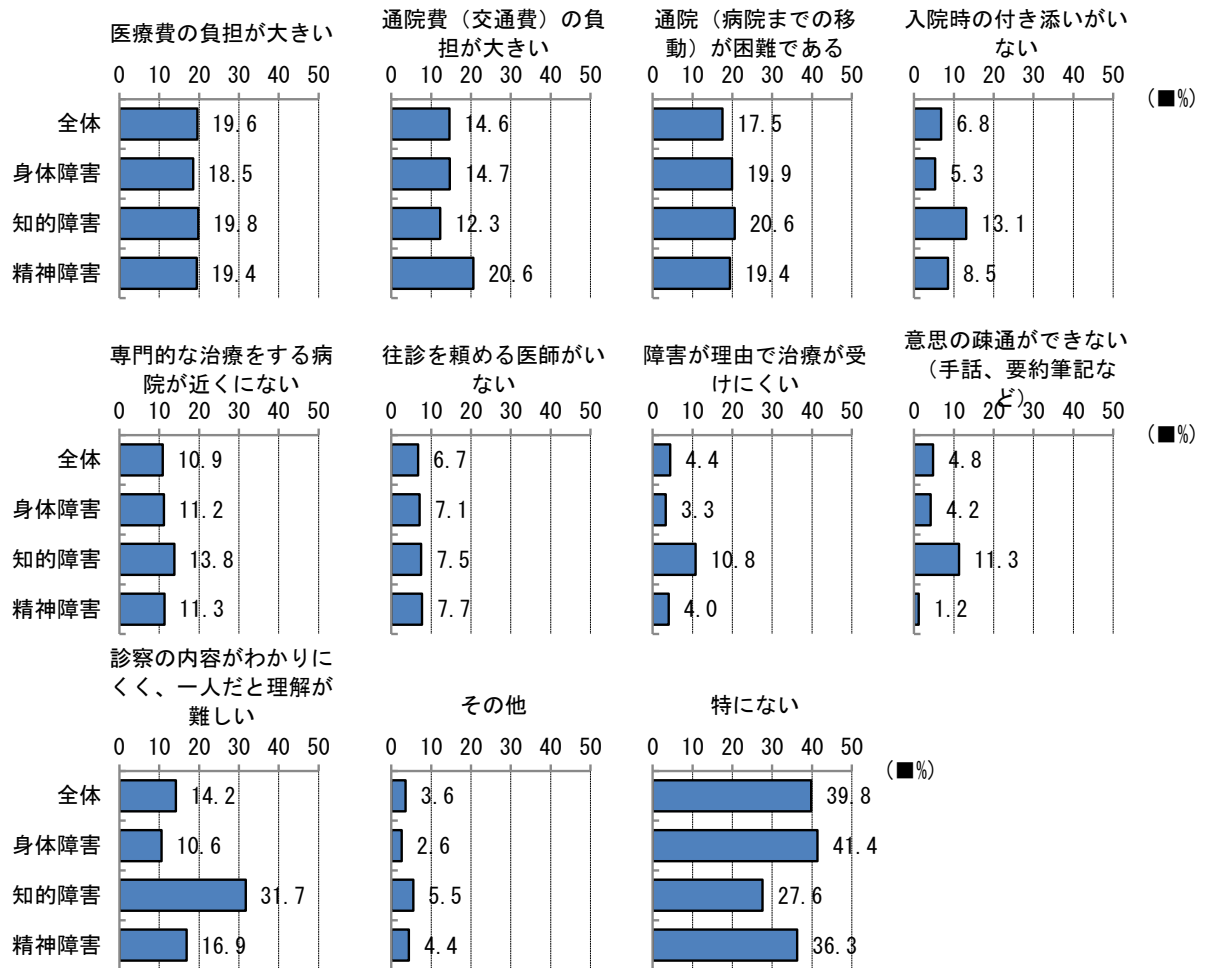


7. 保健・医療

- ・医療を受けるうえで困っていること（18歳以上）は、「特にない」を除くと『身体障害』が「通院（病院までの移動）が困難である」、『知的障害』が「診察の内容がわかりにくく、一人だと理解が難しい」、『精神障害』が「通院費（交通費）の負担が大きい」が高くなっています。
- ・障害等について判定を受けた頃の家族の不安や悩み、困りごと（18歳未満）は、『身体障害』が「介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった」、『知的障害』が「成長段階に応じて、適切かつ継続的に支援を受けられるかわからなかった」、『精神障害』と『発達障害』が「障害のことや療育について相談できる医療機関がわからなかった」が高くなっています。

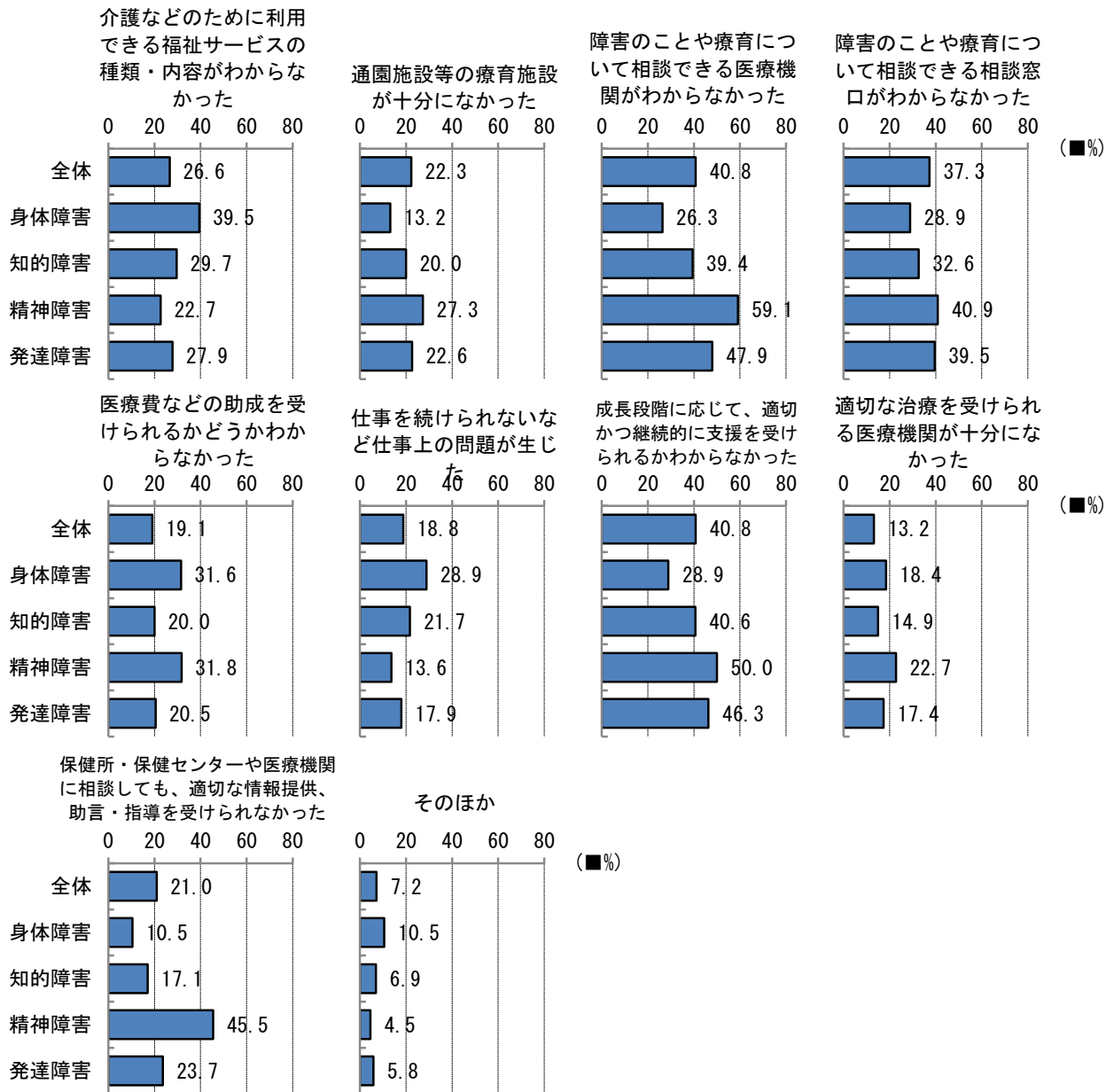
■医療を受けるうえで困っていること

18歳以上



■障害等について判定を受けた頃の家族の不安や悩み、困りごと

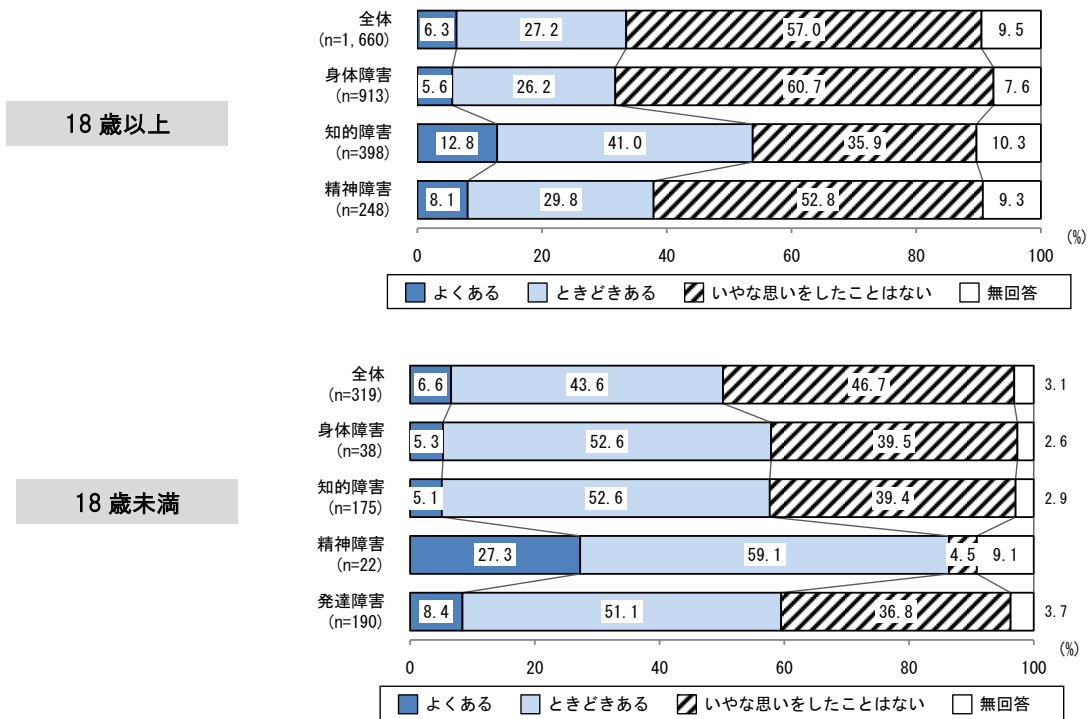
18歳未満



8. 差別等

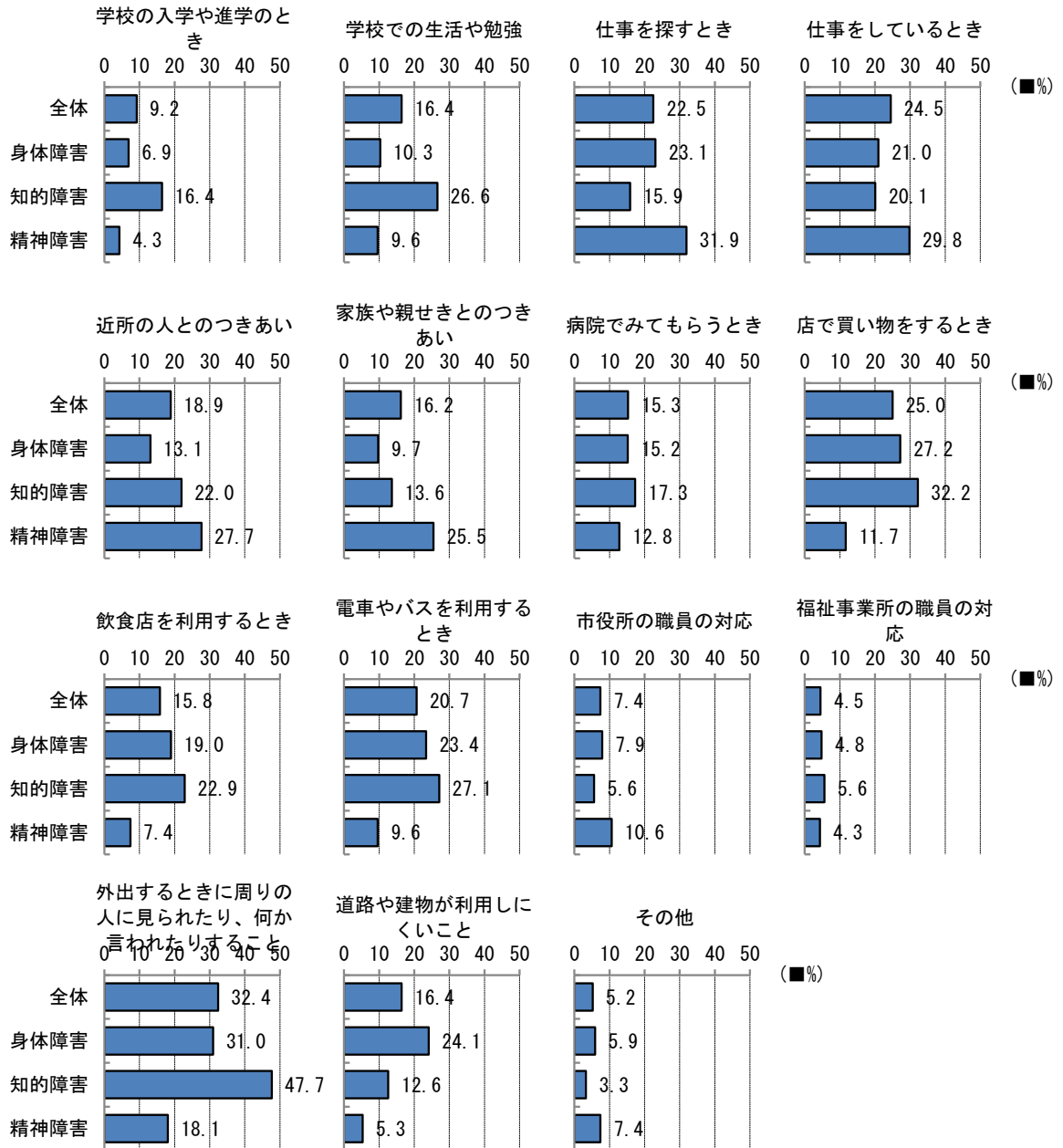
- 差別を受けたりいやな思いをしたことが「ある（「よくある」＋「ときどきある」）」人が、18歳以上では33.5%、18歳未満では50.2%となっています。
- 差別を受けたりいやな思いをした場面（18歳以上）は、『身体障害』と『知的障害』は「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われたりすること」、『精神障害』は「仕事を探すとき」が高くなっています。
- 差別を受けたりいやな思いをした場面（18歳未満）は、『身体障害』と『知的障害』、『発達障害』は「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われたりすること」、『精神障害』、『発達障害』は「学校での生活や勉強」が高くなっています。

■ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたこと

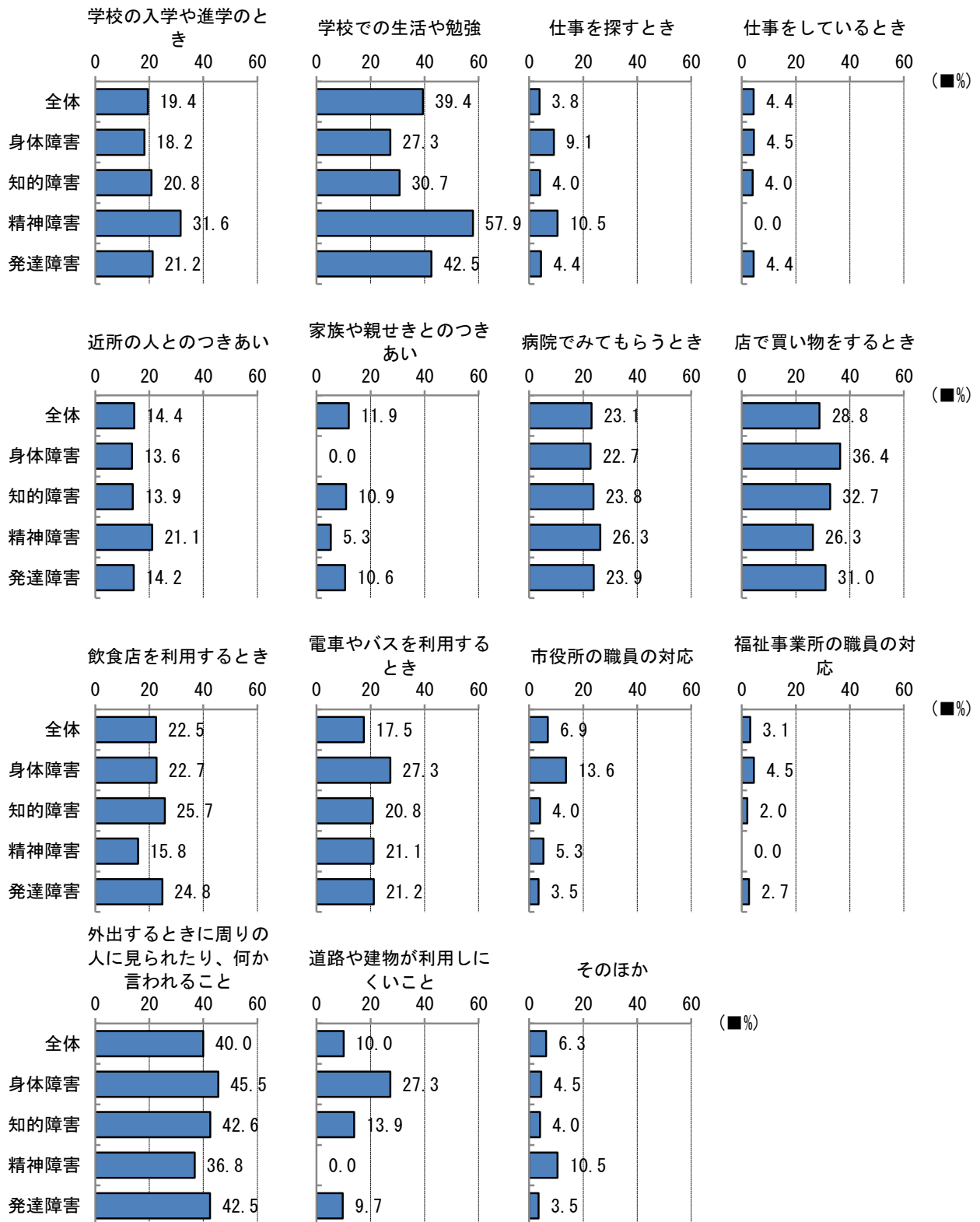


■差別を受けたりいやな思いをした場面

18歳以上



18歳未満

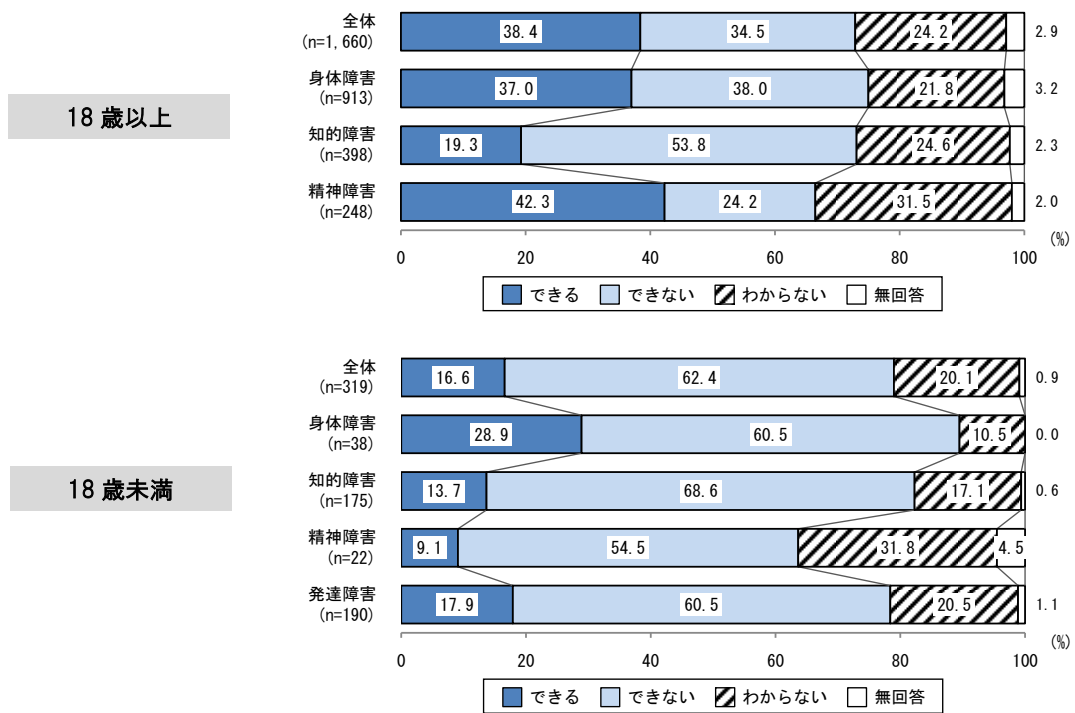


9. 災害

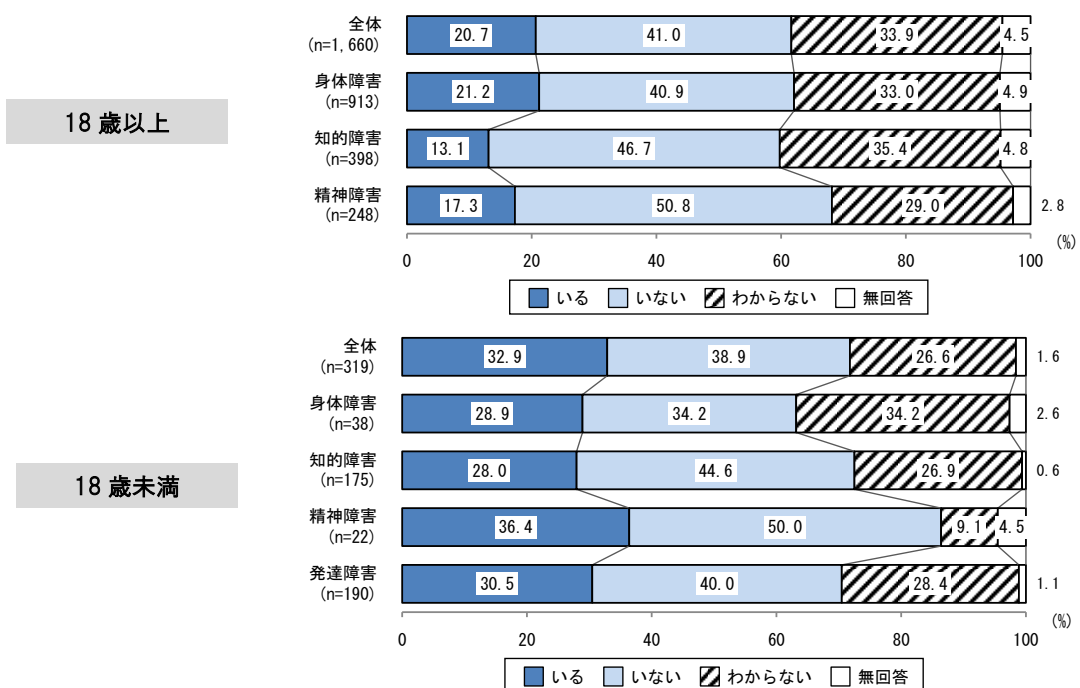
(1) 避難

- 災害時に一人で避難「できる」人は 18 歳以上で 38.4%、18 歳未満では 16.6%となっています。
- 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人が「いる」人は 18 歳以上で 20.7%、18 歳未満では 32.9%となっています。

■災害時の一人での避難可否



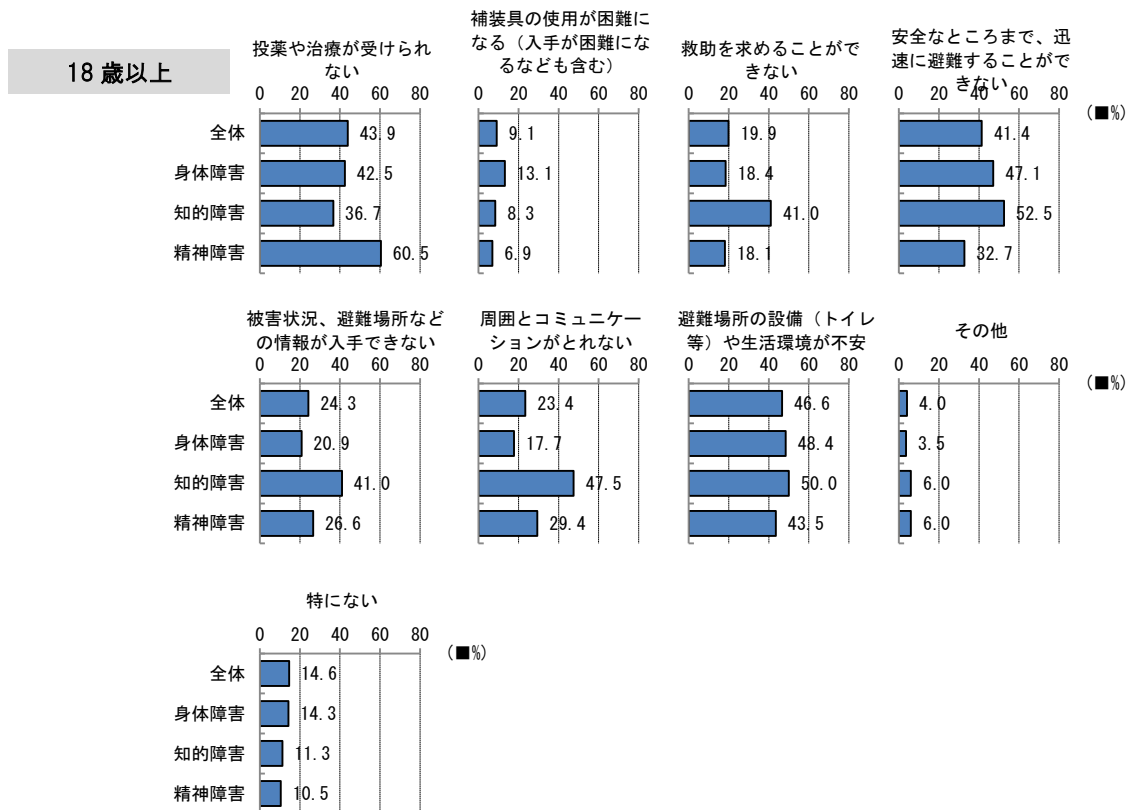
■家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人



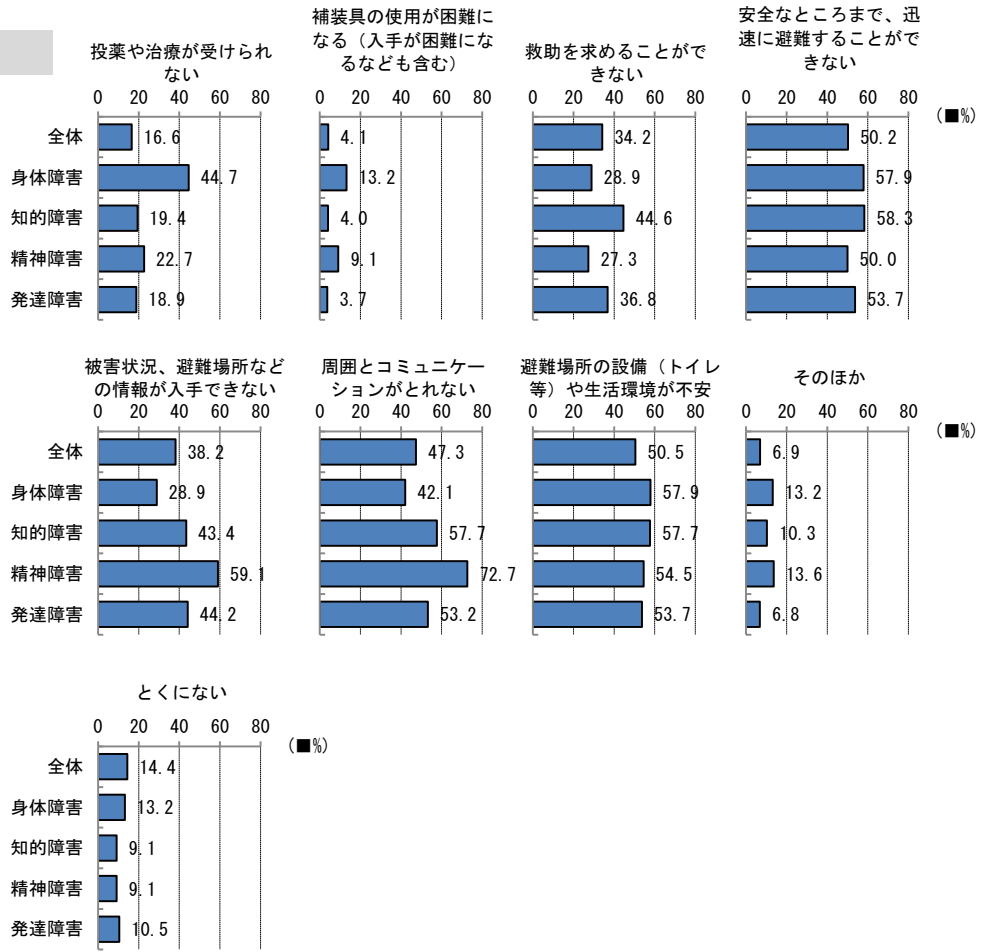
(2) 困ること

- ・災害時に困ること（18歳以上）は、『身体障害』が「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」、『知的障害』が「安全なところまで、迅速に避難することができない」、『精神障害』が「投薬や治療を受けられない」が高くなっています。
- ・災害時に困ること（18歳未満）は、『身体障害』と『発達障害』が「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」と「安全なところまで、迅速に避難することができない」、『知的障害』が「安全なところまで、迅速に避難することができない」、『精神障害』が「周囲とコミュニケーションがとれない」が高くなっています。

■災害時に困ること



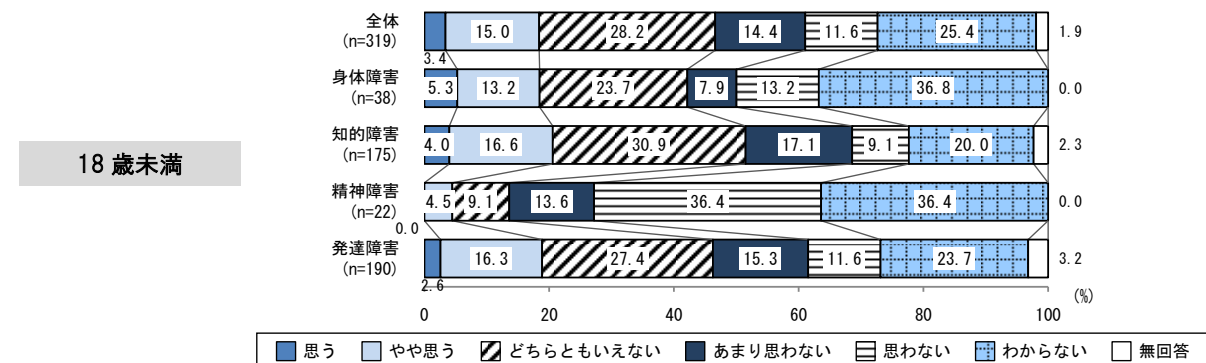
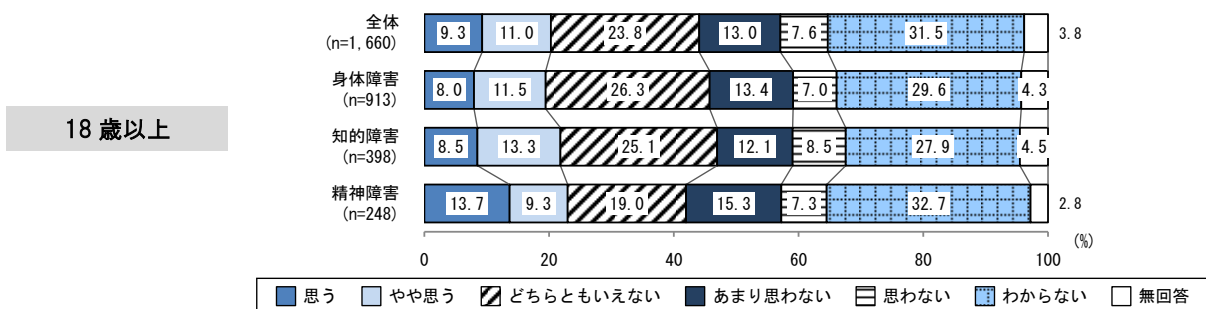
18 歳未満



10. 暮らしやすさ

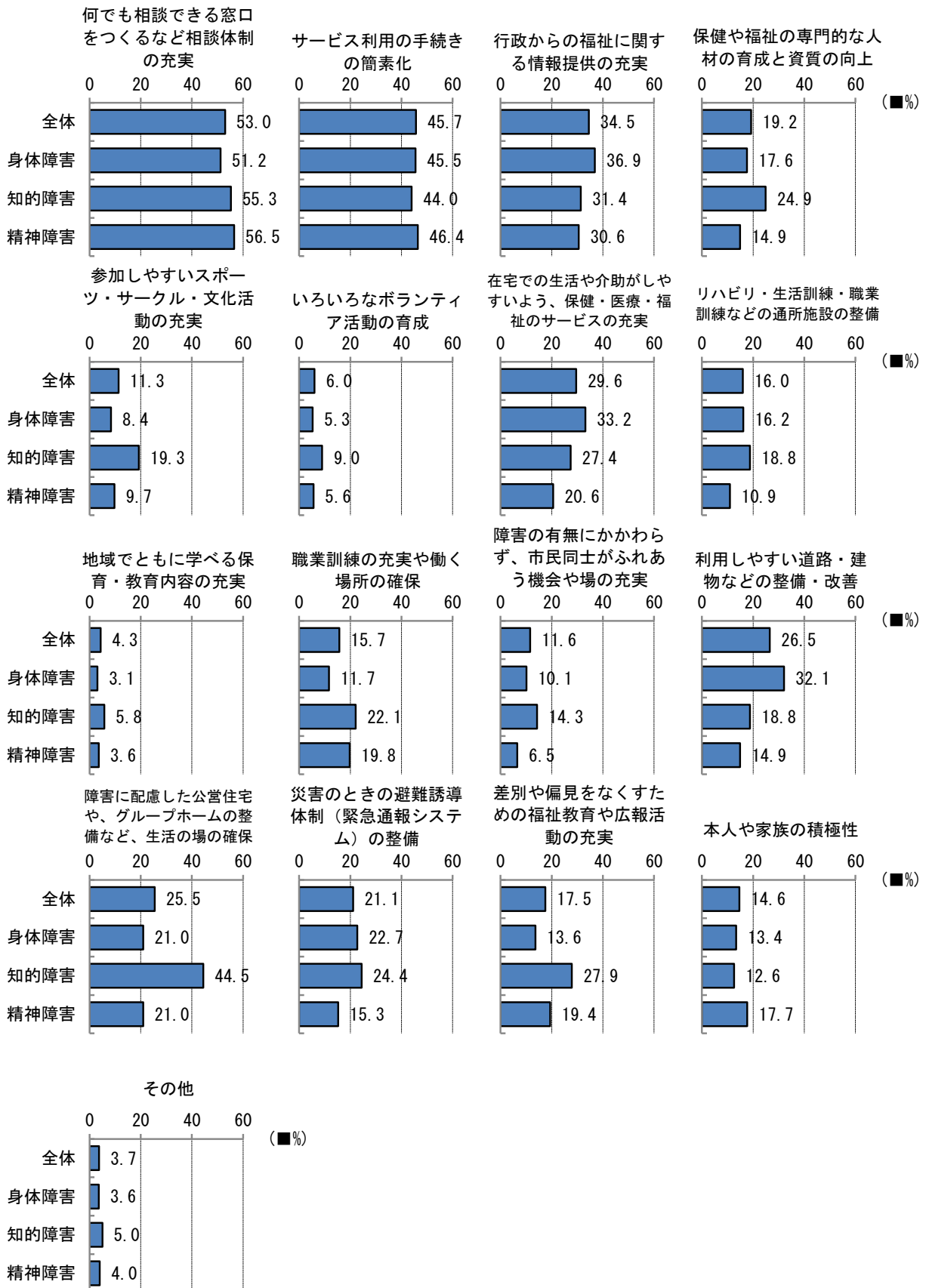
- 羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいと思っている（「思う」＋「やや思う」）人は、18歳以上で20.3%、18歳未満で18.4%となっています。
- 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと（18歳以上）は、障害種別に関わらず「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が高くなっています。
- 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと（18歳未満）は、障害種別に関わらず「サービス利用の手続きの簡素化」が高くなっています。

■羽曳野市の障害のある人にとっての暮らしやすさ



■障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと

18歳以上



18歳未満

